

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふれやか 癒楽
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	北見市
記入者名 (管理者)	清野 津枝
記入日	平成 20 年 8 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	覚えやすい理念に作り変え、その人らしく暮らしていける様、支援している。	今後もサービスの向上を目指していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、スタッフルーム、キッチン等に表示し、日々音読し、職員は理念を共有し、取り組んでいる。	全スタッフが理念をのべる事が出来る様、又、実践していく様、既に行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議も2ヶ月に1回開催し、地域の方、家族に理解して頂ける様、取り組んでいる。	町内会行事の参加や運営推進会議等を利用し運営理念や役割が地域に理解されるよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	戸外散歩、近隣のスーパーへの買い物など挨拶程度では有るが、こちらから声かけしている。	<input type="radio"/> ホーム独自(定期的な)の催し物を行い、気軽に立ち寄ってもらえる様、取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年夏に、町内会のレクリエーションに参加し、地域の人々との交流を深める事が出来た。又6月仁頃田園情報センターにてパン作り体験を行い 何時もお世話になっている地域の方に食べて頂く事が出来た。	町内会たより、回覧板等で情報を知り、町内会長や地域の方と情報交換を行い、又癒楽便りの発行にてよりホームでの様子をお知らせする事が出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	使用しているゴミステーションの掃除を入居者と一緒に行い、地域の清掃をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価での指摘事項を改善し、スタッフ全員で取り組んでいる。		ホーム内時計の位置、御意見箱の設置、スタッフ親睦会開催の勧めなどの指摘受け、改善し取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行ない、サービスの実際、日常生活の様子、行事等報告し、参加者からの意見を取り入れ、サービス向上に努めている。		今後も利用者のサービス実際評価への取り組み、報告、情報、意見交換を行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には民生委員、地域包括支援センター1名参加して頂き、色々な面でアドバイス頂き、サービス向上に努めている。		運営推進会議で頂いたアドバイスや情報を、もとのホーム内での勉強会の開催やフットケア等を実践している。今後も市町村との連携を保ち、サービス向上に努めていく。地域包括支援センター主催の勉強会に参加している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の所該当する利用者はおりませんが、必要な方には活用出来る様支援していきます。		管理者、計画作成担当者等権利擁護の研修会に参加し、その内容を介護職員へ伝達講習を行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないケアを実践している。		虐待ゼロを継続と、ミーティングの中でスタッフに入居者の変化に気づきをもつ様徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要説明事項等を十分な説明を行い、理解して頂いている。	十分な説明を行い、理解を図っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等あった際は、ミーティングにてスタッフと話し合い、 解決策を持ち出し、ケアにつなげている。 又、運営推進会議の際に報告しています。	苦情処理簿を作成し、いつでも閲覧できるよう保管している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際、日常生活状況、身体状況など報告している。 金銭管理については毎月出納帳のチェックをして頂き、確認サインを頂いています。	信頼や協力関係を築くためにも、面会時や定期的な報告を丁寧に行っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホールに意見箱を設置していると共に、面会時に気軽に話して 頂ける様、努めている。	家族の率直な意見や不満、苦情に対し、前向きに活かす様、取り組んでいる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見を常に聞く様にしており、必要な事項は全体ミーティング等で提示し、結果スタッフへ打ち出している。	現場スタッフの意見を十分に聴き、働く意力の向上、質の確保につなげていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事毎の際、スタッフ応援有るが、その他では勤務調整行っていない。	今後柔軟な対応が出来るよう努めていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1月よりスタッフの離職続いたが、「勉強に行っている」と伝える事で、利用者へのダメージを防いでいる	勉強会の開催やOJT等によりモチベーションを維持し、スタッフの離職を最小限に抑える様、努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修をスタッフに受けて貰えるよう 働きかけている	数多くの研修会参加、ホーム独自の勉強会等、計画、実施していく事で、OJTに活用したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会参加、合唱団への参加等で、情報交換など行い、活動を通じてサービス質の向上に努めている。	今後相互訪問等の活動も考えてゆきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的にスタッフの声かけし、話を聞く様にしている。 仕事 中のストレス発散法などのアドバイスを行っている	個々の業務上の悩み聞き出し、相談を継続して居る。 スタッフ間の親睦会が来て居ない為、近日中に行って行く。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事に取り組む姿勢、良い言葉掛けや対応が出来た際、向上心をもって取り組んでいる事に対し、評価し本人へ伝えている。	運営者は必要時、管理者や計画作成担当者、介護職員に対し、個別に面談し、各自が向上心をもって勤務出来る様努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者に不安な事、困っている事などゆっくりとした環境の中で 聴く機会を作り受止めている	いつも側に居て寄り添い、ゆっくりと本人の話を聴き、馴染みの関係を築いている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族面会の際、日常の様子、身体的な事をお話し、家族が気軽に話せる環境を作っている。	家族の話をしっかり聴き、受け止め、解決出来る様、 努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞き、必要としている支援を見極め、対応する様努めている。		本人の希望を大切に支援している
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメント、モニタリング等の際、家族・本人から希望を聴き、ご本人やご家族、又介護職員等と相談しながらサービスの提供を行っている。		本人の思いを聞き出し、言葉がけ、雰囲気作りにてご本人の気持ち大切にして、サービスの提供を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事作業、畑作業など多くは利用者から教えて頂いている。		家事作業等ご本人が行える事は共に行いながら、互いに支え合いながら生活していると言う意識を入居者、ホーム職員一同が常に持つ様になっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際、参加して頂き利用者と一緒に過ぎて頂き、喜怒哀楽を共に出来る様、支援している。		家族の協力も有り、可能な限り一緒に過ごす事が出来ている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	気軽に面会出来る様な雰囲気作りを努めている。居室へ宿泊を行う家族もおられる。		面会時間を設定していないため、自由に面会が可能である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も有り、墓参り、法事参加、自宅外泊も行える様、支援に努めている。		デイケアやお墓参り、法事等ご本人の希望を聞き出し、安全且つ安心して馴染みの場所の関係が途切れないよう出来る限り支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様、介護職員と一緒に買物、散歩、畑作業、家事作業など行い、時に入居者様同士の部屋へ訪問している様子も見られる。入居者同士のトラブル生じた際、スタッフが中に入り回避している。		入居者様同士の個々の性格や以前の生活背景を念頭におき無理なく入居者様同士の関係作りが出来る様支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて相談、支援が出来る様、体制を整えている。		本人・家族の不安を聞き入れ、相談、支援出来るよう努めて行く
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様・ご家族個々の状態、ニーズにあわせてのケアプランを作成している。出来るだけ、ご本人やご家族の意向を伺いながら相談しケアプランを作成するよう心がけている。		インテーク、アセスメント、モニタリング等により、入居者の生活特性が把握されている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴などを基に、個人史を尊重し、その人に合った課題の提供、話し方を行っている。		生活歴の把握、家族からの情報を聞き出し、ご本人主体の生活が出来る様QOL向上に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る限り利用者の判断にまかせ、待つ体制をとり、ゆっくりゆったりとご本人の希望に添った過ごせる暮らしが出来る様努めている。		本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見していく事に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを通して、本人・家族・スタッフの意見を取り入れたプランを作成している。		居室担当者がモニタリングを行い、家族・本人の意見を最大限いかしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング以外必要に応じてプランの見直しを行い、ご本人・ご家族と相談しながら現状に応じたケアプランの作成を行っている。		変化に応じて臨機応変に見直しを行っている。介護支援専門員の指導のもと居室担当スタッフがモニタリングを行っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアプランに添った記録をする様、各勤務帯で行っている。		生活記録により、入居者の状態が把握出来る。特記事項に※印をつけ、情報共有をしながらよりよいケアに向けている。(申し送りの徹底)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車椅子での外出時等要望に応じて対応出来る様、事業所へ連絡、調整し全員での外出を支援している		車の調整が出来れば今後1泊旅行なども計画して行きたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年6月推進会議後にカラオケボランティア3名に来て下さり出席者、入居者共に楽しく過ごす事が出来た。小泉駐在所のおまわりさんの訪問も受け何かの際は協力して下さるとの言葉頂いている		今後もボランティアを受け入れて行く方向である
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する為の体制は出来ている。		治療目的としてデイサービスを利用している入居者も居る。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際、介護予防などのアドバイスを受けて実践している 入居希望などの情報、相談を行っている		介護予防の為毎食前に嚥下訓練(パタカラなど)棒体操など余暇に行い、今後も継続して行く
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員入居前から通院していた病院に定期的に通院し、状態に合わせて介護添書にて状態の伝達を行っている。		家族対応の際、診断内容、薬内容など状況の聞き取りを行い、変更時はスタッフに伝達している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	協力指定病院の医師を確保している。	今後も継続し、協力して頂く。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	保健師にて定期的なバイタルチェック、健康管理、相談等常に行い支援している。	普段より細かな事も相談している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	医療機関のDr、SWと話し合いを行い、早期退院出来る様支援している。	家族との連絡も常に取り、安心して入院生活送れる様支援している。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合や看取りについての指針を整備している。今後は、かかりつけ医師、保健師、家族等と話し合い、早い段階から全員で方針を共有出来る様努めていく。	○ 一部話し合いを進めている家族も居られるが、早めの段階で全員行う様努めていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	終末期に向けより良く暮らせる様、準備を行っていく様、取り組んでいく。	○ 終末期に向けたケアの知識をスタッフ全員で習得し、その人似合ったケアをサービス出来る様研修会などに積極的に参加している。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ご家族、関係者と十分な話し合い、情報交換を行い、本人のダメージを防ぐ事に努めている。	移り住む先に本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、利用者のダメージを最小限に抑えていく方針である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄等ご本人の誇りやプライバシーを損ねる可能性のある言葉かけに関しては、十分に留意している。その人に合わせた言葉かけを行い、記録は個人ファイルに保管し、対応している。	日常的に気分を損ねる言葉掛けは行わない様、スタッフに伝えている実践している（言葉での抑制はしないよう）
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望や意向又表情を読み取り、調理や掃除、畑で作物を取る等個々に役割を持って頂き、それぞれが納得し、生活が出来る様支援している。	出来る事、出来ない事を見極めながら、説明し納得して頂きながら、スタッフも一緒に携わり行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を尊重し対応しているが、業務が優先する事が 時に有る。	一人ひとりのペースを大切に、希望に添った生活維持出来る様努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回理院が来て希望にあわせ散髪、髭剃りされている。家族の協力にて美容室に行かれる入居者もいる。	外出、行事の際、化粧などのお洒落を楽しむ機会を作っている。服装の色合い、着方に関してさりげなくサポートしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に盛り付けや配膳、後片付け等を行いつつ、食事の準備を行ったり、ホームでの畑で収穫した野菜を利用して、副食を作った事で食事中にも話題となり食事を楽しんでいる。又毎週土曜日の夕食に利用者希望の献立を考え、一緒に買物、調理と行い、手作り料理を楽しんでいる。	スタッフ見守りの中、上手に包丁も使われ、盛り付けも行いいきいきとした表情が見る事が出来、土曜の夕食手作りは今後も継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は本人希望の物提供し、おやつは出来る限り手作りとして 一緒に楽しめる様支援している。	お酒に関してはお正月、敬老会等におめでたい日に提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別排泄チェックを行い、個々にアセスメントし、ケアプランにも盛り込み、個別に声かけ、誘導を行い、状態に合わせて日中、夜間等下着やオムツを使い分けている。		個別の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立を支援していくと共に、プライバシーに配慮しての対応を継続していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ希望に添える様にしている。外出、受診予定の有る方は前日に入浴出来る様、配慮しているが、時間帯に関して本人希望の時間とは今の所いつていない。		毎回浴剤を入れ温泉気分を味わって頂き、希望の際は配慮できている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握している。夜間眠むれない方へは暖かい飲み物提供し、安眠策をとっている。		午睡時間の把握、日中の適度な運動の促しを行っている。眠る事だけに注目せず、その人の生活習慣等を考え支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、家事作業、散歩、ゲーム等、自分がやりたい事をし、張り合いの有る日々を過ごして頂ける様支援している。		潜在している記憶やできる力を活して個々に合った楽しみが出来る様支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、希望時はスタッフ一緒に買物に出掛け、自分で支払いをして頂いている。		一部の入居者は外泊時、希望金額を持参し、自分で管理し、買物をされ楽しんでいられる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の穏やかな日には出来るだけ戸外散歩に多くの方が出られる様支援している。		庭掃除、野菜の手入れ、水やり、草取り、洗濯物干しなど一緒に行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣の回転寿司、桜見学、夏祭り、紅葉見学等体調に合わせて外出機会を作っている。今年6月女性入居者4名、スタッフで「にっころ」にて初めてのパン作り体験を行った		家族の協力にて、墓参り、法事など参加されたり外泊など、本人の思いに添っての外出の支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族に電話を掛けられる様、対応出来ている。		頻回に家族面会有り、手紙のやり取りはしていないが、四季を通じて絵手紙等を取り入れてゆきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は玄関出迎え、さわやかな挨拶、居室、リビング等でゆっくり過ごして頂ける様お茶、時におやつを提供する様配慮している。		玄関スロープには花を飾り入りやすい雰囲気を作っている。面会時間の設定はしていない為、いつでも訪問出来る様成っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		「どんな事が有っても拘束は行わない」事と スタッフ全員周知徹底し、取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵をかけないケアを実践している 夜間22～5:30迄施錠している。		玄関センサーを設置しており、反応時は必ず玄関へ 出迎え確認し事故を防いでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間声掛け合い、常に利用者の所在を把握している。 夜間巡回し、安全に配慮している。		自室で休まれている際もプライバシーを配慮しながら、利用者の状態を把握し、危険を防いでいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱、爪切り、カミソリ等の危険な物品は本人、家族の了解の上、 スタッフルームにて個別に保管している。		本人希望時はスタッフ見守り使用されている。内服に関しては全てホーム管理で行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人、ひとりの状態に応じて対応し、事故防止に取り組んでいる。薬に関しては、職員同士が2回服用前に名前、処方内容等を確認、徹底している為、誤薬はない。		事故が生じた際、緊急ミーティングにて話し合い、防止策を打ち出し実践している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアルは常備しているが、全てのスタッフが把握できていない。スタッフの入れ替えも有る事で、「救急救命法」の講習を受けていく	○	応急手当、初期対応など全てのスタッフが対応出来る様繰り返し、定期的な勉強会を計画していく予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力得て、避難訓練を行っている。(H19.10、H20.3実施)	○	近隣の喫茶店のオーナーより災害時は協力しますよと返事頂いている。はっきりとした手段はまだ出来ていない為今後対策を考えて行く、又町内会へも協力得られる様働きかけて行く。防災用具の準備をしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご本人の心身状況を確認し、起こりえるリスクに関しては、常に家族へ面会時や電話等で説明し、安心して暮らして頂ける様、相談している。		抑圧感のない暮らしを大切に、リスクについて何度も説明し、ご家族へ対応策等の構築の為話し合いをしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常のサインは早期発見、対応できる様、スタッフは常に注意を払い、必ず記録に残し情報の共有をしている。		体調変化有る際、すぐ管理者に報告し、指示受けると共に、家族への報告、必要に応じて受診対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを用いて、内容知る事が出来る。症状の変化にも留意し、適切に服用して頂ける様努めている。 Wチェックする事で誤薬は起きていない。		ミーティングの際個々の内服ファイルを活用し、薬の目的、副作用、用法にスタッフが十分に理解出来る様継続的に伝えていく等の取り組みが出来ている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起きがけの冷水、牛乳などを提供したり、適度な運動、腹部マッサージ等も行い、便秘の予防に努めている。		個々の排泄パターンを知り、水分、食事摂取量のチェックに共に出来る限り下剤を使用しない工夫をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い、必要に応じて舌のブラシの使用も行い 口腔内の清潔に努めている。ご本人が行える方は、まずご本人で行って頂き、職員が確認等させて頂いている。		就寝前は義歯を外して頂き、洗浄剤につけている。常に残存歯の状態の確認や口腔内の清潔保持に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000～1500cc目度に水分量を確保出来る様、水分摂取法の工夫や記録等確認しながら支援している。食事量は個々に合わせた形状や量を提供している。		水分不足による脱水症については全スタッフが周知しており、日々工夫をしながら水分量確保に努めている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	来館者、スタッフ、入居者は外出、来館時手洗い、うがいを実行し、食器消毒も年間通して行っている。(保健所からのマニュアルに添って)		徹底して実践している為、現在の所感染症になった利用者はいない。又水も1度沸騰させ湯冷ましとして提供している
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、ふきん、台所は常に清潔に使用し、その都度消毒を行い、衛生管理に努めている。食材についても沢山在庫せず 早めに使用している。		今後も衛生権利に注意を払い、努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関スロープにガーデニング、ベンチを置き、建物周囲には畑を作り、新鮮な野菜が実っていて親しみやすい工夫をしている。		玄関入口が道路から見えにくい所に有るが、遊歩道も目の前に有り、安心して頂いている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室にはのれん、トイレには花を置き(季節ごと変えている)、廊下、リビングには行事毎の写真、利用者の作品など貼り楽しんでいる		リビングには日めくりカレンダー四季折々の壁掛けを作り、心地よく過ごして頂けるよう工夫をしている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろがれる方、TVを見ている方、塗り絵を行うなど利用者同志で 思い思いに過ごして頂いている。		気持ちが落ち着かない利用者は気分転換にスタッフと一緒に戸外へ出かけたり、スタッフ側に寄り添うことで落ち着く事も有る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物が持ち込まれ、ベッドの高さを調整し、家具の位置は家族と相談の上配置している。		食事時は機能訓練の為車椅子の入居者様も食卓椅子に座って頂き食事がしやすい様に行っている。 仏壇を持参している利用者は命日に水やご飯を供える光景も見られる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	調理の際、換気扇を使用し、窓を開けて常に空気の上よどみがないよう努めている。 又、室温、湿度表チェックも行い、こまめに調整する様に努めている。クーラー使用は最小限としている		冬季は居室、リビングの湿度調整に濡バスタオル等用いて、湿度を保つ事が出来、利用者の健康管理にもつながった。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能を把握し、食事の際は車椅子から椅子へ移動して頂く、廊下、トイレには手すりが設置して有り、手すりを利用して歩行や立ち上がり等機能訓練を出来る様に支援している。(バリアフリー仕様)		利用者に合わせて食卓テーブル、ソファの位置を変える事で、車椅子利用者がスムーズに移動出来ている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の出来る、出来ない事を見極めスタッフはゆっくりとした口調で話し、誤って言動にも否定しない様、努めている。		混乱や失敗を出来るだけ防ぐよう配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近くに遊歩道が有り、散歩に出やすく花壇、畑作りで毎日手入れ、水やり行い、玄関スロープ下では七夕、花火、焼き芋、焼肉など活用して楽しんでいる。		ベンチ設置しており日光浴され、気分転換を図る入居者様もいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ 誤嚥性肺炎予防のため、に嚥下訓練1日3回食前に行い、又余暇に棒体操など介護予防に努めている。季節感を持っていただける様、行事 外食など出来るだけ全員で行